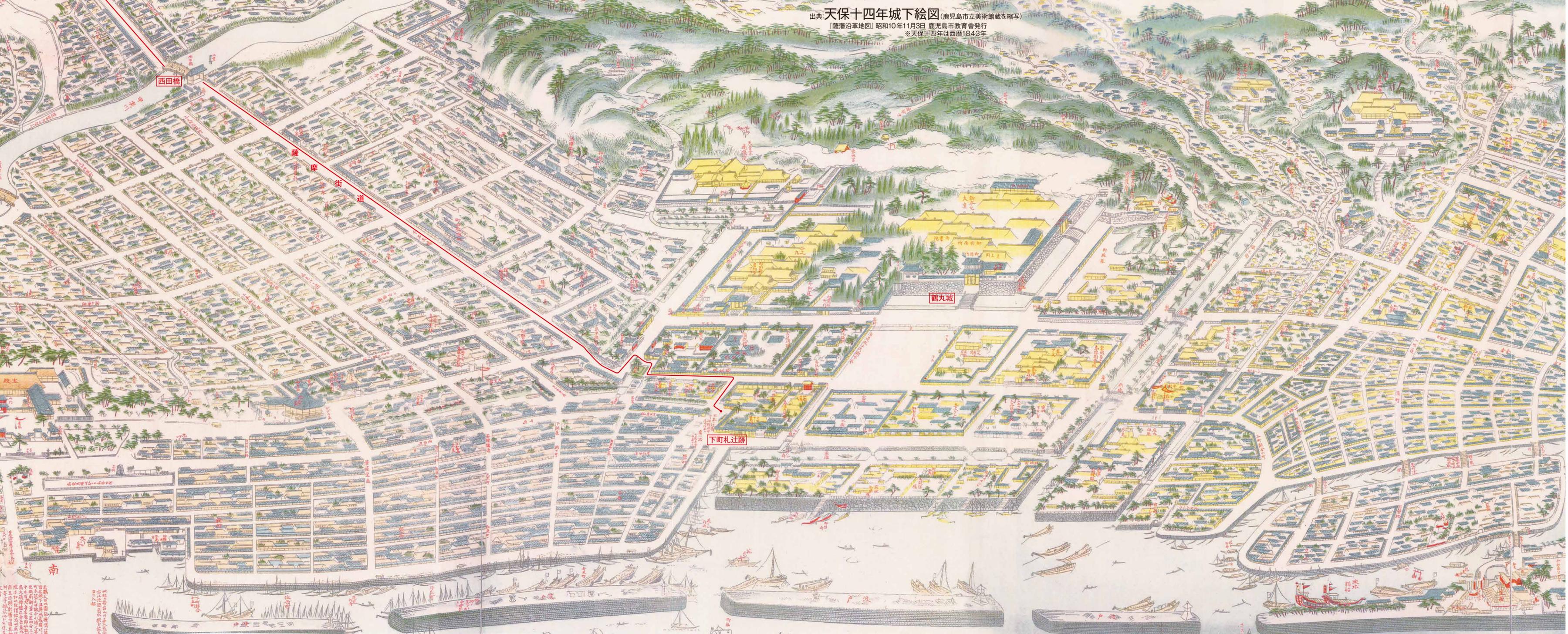


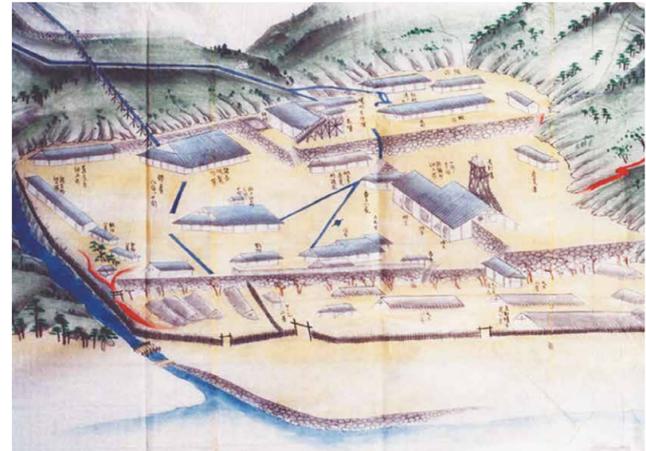
天保十四年城下絵図 (鹿児島市立美術館蔵を縮写)
 出典 『薩藩沿革地図』 昭和10年11月3日 鹿児島市教育會発行
 ※天保十四年は西暦1843年



日本の近代化を牽引した薩摩藩

今から約150年前の江戸時代末期、薩摩藩主の別邸が置かれていた磯の一角に、日本では初めての近代的な工場群「集成館」が現れました。この陣頭指揮をとったのは、集成館に日本の未来を託した当時の薩摩藩主・島津斉彬です。

斉彬によって「集成館」と命名された工場群では、大砲製造や軍艦建造のみならず、紡績やガラス製造、印刷など様々な事業が行われ、「集成館」で培われた技術は、その後の九州・山口を中心とする日本の初期の近代化に大きく貢献しています。



薩洲鹿児島見取絵図(武雄鍋島家資料 武雄市蔵)
 ●安政4 (1857) 年、薩摩藩内を視察した佐賀藩士によって描かれたもの。工場が建ち並ぶ様子などがよくわかります。



旧集成館機械工場
 我が国最古の洋風工場建築物。溶結凝灰石が使われている。(1865年築造)



旧集成館[反射炉跡]
 反射炉(鉄製砲を製造するための炉)の基礎部。(1857年築造)



旧鹿児島紡績所技師館
 イギリス人技師の住居として建設された建物。(1867年築造)